

皆様に、最新の**労働災害情報**をおとどけしています！

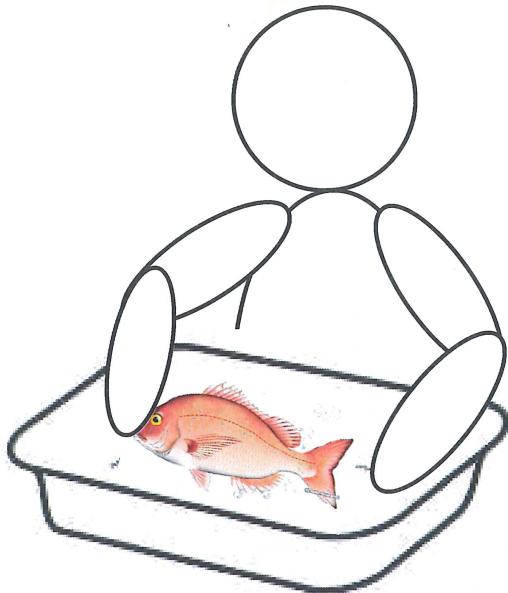
## 災害発生情報 No.88

2016. 3. 24  
(社) 筑西労働基準協会

筑西労働基準監督署管内で発生した労働災害の最新情報をお届けしています。各社の安全衛生管理活動にご活用ください。

### 【その他(職業性疾病)】

業種	一般飲食店	経験	5年	年齢	40歳	男女	男性
発生月	_____		発生時刻	10時30分			
発生状況	店内キッチンにおいて、朝の仕込みで発泡スチロールより鯛を取り出そうとした際、背びれが右手人差し指に刺さった。アルコール消毒で様子を見ていたが、数日後、肩まで腫れ上がり通院。更に受傷から約3週間後、40度近くの高熱が出て、入院した。						
負傷の程度/部位	結節性紅斑、溶連菌感染症		休業見込	2週間			



絵の引用元：(C) あとりえボルカドッツ URL:[www.atpicpac.v.or.jp](http://www.atpicpac.v.or.jp)

### ◆ 再発防止のアドバイス

- 1 ラテックス手袋を常備しておき、魚（特に病魚）を触るときはラテックス手袋の着用をします。  
特に病気等で免疫力が低下している、手や腕に外傷がある場合は感染のリスクが高いため、必ず着用してください。
- 2 食中毒らしき症状や腫れなどの症状が認められた場合、速やかに医師の診断を受けてください。その際、魚などと接触したことが原因かもしれないことをはっきりと医師に伝えましょう。

### ◆ コメント

魚類、両生類、爬虫類から感染する病気では、重篤になるものは少ないようですが、やはり注意は必要です。魚を扱う職業の方々の間では、非結核性抗酸菌による感染症は広く知られており、本件についてはマイコバクテリウム症（皮膚の外傷から感染し、約2週間の潜伏期を経て発症。リンパ流によって上行性に生じることもある。）と酷似しています。

マイコバクテリウム症以外にも魚を原因とする非結核性抗酸菌による感染は多数あり、皮膚の小外傷を介して魚などから感染するため、釣りをする人や自宅で熱帯魚、金魚などを飼っている人も注意が必要です。特に自宅で魚を飼っている場合、水槽にも付着していることから、魚の世話をしたら良く手を洗うことを心がけてください。

### 【お願い】

この記事は、筑西労働基準監督署のご協力により作成し、随時お届けしています。お届けしている災害情報はすべて実際に発生した事故ですが、わかりやすいように一部加工する場合があります。